

令和元年度

# 川崎市立中学校 学習診断テスト

## 国語科

### 誤答分析と学習指導上の考察

川崎市教育委員会  
川崎市立中学校長会  
国語科調査委員会

# 国 語

## I 作成方針と構成

### 1. 作問にあたって

今年度は「調査の目的」に基づいて基礎・基本の定着の状況を調べるとともに、子どもたちが問題に取り組み、自ら課題を見つける視点を大切にして出題するように努めた。作問にあたっては、中学校学習指導要領を踏まえ、「平成30年度川崎市立中学校学習診断テスト 誤答分析と学習指導上の考察」で挙げられた課題や全国学力・学習状況調査などの出題のねらいを考慮し、問題を作成した。また、国語科では昨年度からの経年観察を踏まえ、漢字や文法事項、語句の知識や仮名遣い、文章の把握などを「知識・技能」に、読み取ったことを整理すること、文章中の表現から人物の心情を想像することなどを「思考・判断・表現」に分類した。

・全国学力・学習状況調査は、教科調査の内容として次の2つを示しており、本市診断テストの作問にあたっては、問題作成の指針として意識した。

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な問題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

・出題範囲と内容については、各学年ともに10月末までに学習する内容を主体とし、漢字の読み、書き、語句の知識や文法、書写、韻文（詩・短歌・俳句）、文学的な文章（小説）、説明的な文章（説明文）、古典（古文）から出題した。ただし、1学年の古典、2・3学年の書写については出題しなかった。また、全学年で、履修内容や本市生徒の実態を考慮し、子どもたちにとって身近な話題を題材にした聞き取りテストを実施した。

・平成25年度から実施している「読む力」を問うための記述式問題では、文学的な文章及び説明的な文章から、字数制限、一文を条件とした出題を今年度も継続した。また、今年度も2学年で、「書く力」を問うものとして、提示された資料を読み取り、条件にあった文章を記述する問題を出題した。

なお、文学的な文章と説明的な文章の選定にあたっては、文字数や使用されている語句、続きを読みたくなるような作品であることなど複数の選定基準を設定し、多数の候補作品の中から吟味したうえで出題する作品を決定した。

今年度も、「時間や知識の不足などを理由に取り組まないのではなく、問題に挑戦することの大切さを学び、国語の学習を通して確かな言葉の力を身に付けるとともに、新たな発見や課題解決に取り組む前向きな心を育てほしい」という作問委員の思いを形にするように心がけ、問題の作成にあたった。

## 2. 出題のねらい

	1 年	2 年	3 年
問一	<p>●校内放送の内容を的確に聞き取ることができるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>話し方のよい点をとらえることができるか。</li> <li>放送の内容を的確に聞き取ることができるか。</li> <li>聞いた内容を資料に生かすことができるか。</li> </ul>	<p>●インタビューの内容を的確に聞き取ることができるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>インタビューの進め方を的確にとらえることができるか。</li> <li>インタビューの内容を的確に聞き取ることができるか。</li> <li>話題と資料との関係をとらえて聞くことができるか。</li> </ul>	<p>●話し合いの内容を的確に聞き取ることができるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>話し合いの内容を的確に聞き取ることができるか。</li> <li>話し合いの仕方を的確にとらえることができるか。</li> <li>話題と資料との関係をとらえて聞くことができるか。</li> </ul>
問二	<p>●言語事項に関する基礎的な知識が身についているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>既習の漢字について読字、書字ができるか。</li> <li>言葉の単位が理解できるか。</li> <li>指示語が理解できるか。</li> <li>漢字の部首が理解できるか。</li> </ul>	<p>●言語事項に関する基礎的な知識が身についているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>既習の漢字について読字、書字ができるか。</li> <li>単語が理解できるか。</li> <li>修飾語、被修飾語の使い方が理解できるか。</li> <li>類義語が理解できるか。</li> </ul>	<p>●言語事項に関する基礎的な知識が身についているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>既習の漢字について読字、書字ができるか。</li> <li>同訓異字が理解できるか。</li> <li>故事成語が理解できるか。</li> <li>連体詞と形容動詞の識別ができるか。</li> </ul>
問三	<p>●書写における楷書の書き方が身についているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>正しい画数を理解しているか。</li> <li>楷書の書き方を適切に理解しているか。</li> </ul>	<p>●短歌の内容を理解し、的確に鑑賞することができるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>内容の理解と的確な鑑賞ができるか。</li> <li>表現技法が理解できるか。</li> </ul>	<p>●俳句の内容を理解し、的確に鑑賞することができるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>内容の理解と的確な鑑賞ができるか。</li> <li>季語、季節を理解できるか。</li> <li>表現上の特色が理解できるか。</li> <li>表現技法が理解できるか。</li> </ul>
問四	<p>●詩の内容を理解し、的確に鑑賞することができるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>内容の理解と的確な鑑賞ができるか。</li> <li>表現上の特色が理解できるか。</li> <li>詩中の語句の使い方について理解できるか。</li> </ul>	<p>●文学的な文章の読解ができるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>登場人物の心情を読み取ることができるか。</li> <li>内容の理解、把握ができるか。</li> <li>文章を的確に読み取り、条件を満たして記述することができるか。</li> <li>人物像を的確に把握できるか。</li> <li>文章中の語句の使い方について理解できるか。</li> </ul>	<p>●文学的な文章の読解ができるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>内容の理解、把握ができるか。</li> <li>文章中の語句の使い方について理解できるか。</li> <li>登場人物の心情を読み取ることができるか。</li> <li>文章を的確に読み取り、条件を満たして記述することができるか。</li> </ul>
問五	<p>●文学的な文章の読解ができるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>内容の理解、把握ができるか。</li> <li>登場人物の心情を読み取ることができるか。</li> <li>文章中での語句の使い方について理解できるか。</li> <li>文章を的確に読み取り、条件を満たして記述することができるか。</li> <li>登場人物の特徴をとらえることができるか。</li> </ul>	<p>●説明的な文章の読解ができるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>文のつながりを理解することができるか。</li> <li>接続語を理解し、文章相互の関係をとらえることができるか。</li> <li>内容の理解、把握ができるか。</li> </ul>	<p>●説明的な文章の読解ができるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>内容の理解、把握ができるか。</li> <li>文章を的確に読み取り、条件を満たして記述することができるか。</li> <li>段落の前後関係を理解することができるか。</li> </ul>
問六	<p>●説明的な文章の読解ができるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>文章を的確に読み取り、条件を満たして記述することができるか。</li> <li>接続語を理解し、文章相互の関係をとらえることができるか。</li> <li>内容の理解、把握ができるか。</li> <li>段落相互の関係が理解できるか。</li> </ul>	<p>●古典の読解ができるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>歴史的かなづかいを正しく理解しているか。</li> <li>主語の把握ができるか。</li> <li>地の文と会話文を識別できるか。</li> <li>内容の理解、把握ができるか。</li> </ul>	<p>●古典の読解ができるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地の文と会話文を識別できるか。</li> <li>歴史的かなづかいを正しく理解しているか。</li> <li>内容の理解、把握ができるか。</li> <li>主語の把握ができるか。</li> </ul>
問七		<p>●目的を理解し、条件に沿って記述することができるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>条件を満たして、文章を書くことができるか。</li> <li>目的に沿って作文できるか。</li> </ul>	

## Ⅱ

## 第1学年の結果と分析

## 1. 小問別の問題内容と結果正答率【国語 第1学年】

問題番号		趣旨		話・聞	書	読	言	問題の内容	出題のねらい	正答率(%)	無答率
大問	小問	知・技	思・判・表								
1	(ア)		○	◎				①聞き取り	放送の仕方により点をとらえることができるか。	72	0
	(イ)1	○		◎					放送の内容を的確に聞き取ることができるか。	96	0
	(イ)2	○		◎					放送の内容を的確に聞き取ることができるか。	67	1
	(イ)3	○		◎					放送の内容を的確に聞き取ることができるか。	87	1
	(ウ)		○	◎					聞いた内容を資料に生かすことができるか。	85	2
2	(ア)1	○					◎	②漢字の読み	既習の漢字について、正しく音読みできるか。	98	0
	(ア)2	○					◎		既習の漢字について、正しく音読みできるか。	98	0
	(ア)3	○					◎		既習の漢字について、正しく音読みできるか。	96	0
	(ア)4	○					◎		既習の漢字について、正しく訓読みできるか。	85	5
	(ア)5	○					◎		既習の漢字について、正しく訓読みできるか。	99	0
	(イ)1	○					◎	③漢字の書き	既習の漢字について、正しく書くことができるか。	42	22
	(イ)2	○					◎		既習の漢字について、正しく書くことができるか。	69	8
	(イ)3	○					◎		既習の漢字について、正しく書くことができるか。	51	12
	(イ)4	○					◎		既習の漢字について、正しく書くことができるか。	57	19
	(イ)5	○					◎		既習の漢字について、正しく書くことができるか。	66	13
	(ウ)	○						④言葉に関する知識	言葉の単位が理解できるか。	58	0
	(エ)	○					◎		指示語が理解できるか。	74	1
	(オ)	○					◎		漢字の部首が理解できるか。	77	11
3	(ア)	○					◎	⑤書写に関する知識	正しい画数を理解しているか。	32	0
	(イ)	○					◎		楷書の書き方を適切に理解しているか。	81	0
4	(ア)		○				◎	⑥詩の読み取り	内容の理解と的確な鑑賞ができるか。	43	0
	(イ)		○				◎		内容の理解と的確な鑑賞ができるか。	93	0
	(ウ)		○				◎		内容の理解と的確な鑑賞ができるか。	86	0
	(エ)		○				◎		内容の理解と的確な鑑賞ができるか。	65	0
	(オ)Ⅰ		○				◎		詩中の語句の使い方について理解できるか。	37	16
	(オ)Ⅱ		○				◎		詩中の語句の使い方について理解できるか。	44	25
	(オ)Ⅲ		○				◎		詩中の語句の使い方について理解できるか。	43	17
5	(ア)		○				◎	⑥文学的文章の読み取り	内容の理解・把握ができるか。	95	0
	(イ)		○				◎		登場人物の心情を読み取ることができるか。	75	0
	(ウ)		○				◎		内容の理解・把握ができるか。	71	0
	(エ)		○				◎		文章中での語句の使い方について理解できるか。	74	0
	(オ)		○				◎		内容の理解・把握ができるか。	95	0
	(カ)		○		○		◎		文章を的確に読み取り、条件を満たして記述することができるか。	40	10
	(キ)		○				◎		登場人物の特徴をとらえることができるか。	77	1
6	(ア)		○				◎	⑦説明的文章の読み取り	接続語を理解し、文章相互の関係をとらえることができるか。	49	3
	(イ)		○				◎		内容の理解・把握ができるか。	83	1
	(ウ)		○				◎		内容の理解・把握ができるか。	77	3
	(エ)		○				◎		内容の理解・把握ができるか。	72	2
	(オ)		○				◎		内容の理解・把握ができるか。	77	2
	(カ)		○		○		◎		文章を的確に読み取り、条件を満たして記述することができるか。	31	22
	(キ)		○				◎		段落相互の関係が理解できるか。	55	10
	(ク)		○				◎		内容の理解・把握ができるか。	54	10

◎…主たる観点

平均正答率 (%)		
知識・技能		74.0
思考・判断・表現		66.3

## 2. 主な誤答と分析【国語 第1学年】

大問	小問	正答	正答率	無答率	主な誤答	(%)	授業改善への手だて	
1	(ア)	1	72	0	3 2 4	13 8 7	大問1は、「校内放送」を正確に聞き取ることができるかをテーマとするものであった。小問イは、放送内容を問う問題であった。全体的に正答率は高かったが、ほかの設問と比べて2の正答率が低いことを考えると、全体の大まかな内容を捉えることはできていても、細かい情報を聞き逃してしまう傾向があると考えられる。普段の授業から、要点に注意して話を聞くこと、メモを取る際に重要な点は何なのかを考えさせること等が必要である。 (平均正答率 81.4%)	
	(イ)	1	×	96	0	○ 表記の誤り		1 3
		2	○	67	1	× 表記の誤り		30 2
		3	○	87	1	× 表記の誤り		10 2
	(ウ)	1		85	2	2 3		11 2
2	(ア)	1	あんせい	98	0	あんし あんしん	1 1	大問2は、言語に関する力を問うものであった。前年度と比較すると全体的に正答率は高い。しかし、4の「唱える」については正答率が85%であるものの、小学校4年生で習う漢字であり、他の漢字に比べて定着していない生徒が多いことが分かる。誤答を見ると、文脈から言葉の意味を考えて答えることができていない傾向がある。授業においては、学習した漢字を日常生活の中で活用できるよう、具体的な生活の場面などを想起させながら指導していく必要がある。 (平均正答率 95.2%)
		2	もよう	98	0	もうそう ようさま	1 1	
		3	してき	96	0	しじ てきしつ しょう など	1 1 2	
		4	とな(える)	85	5	ととの かな か など	2 1 7	
		5	ため(す)	99	0	しめ	1	
	(イ)	1	要求	42	22	○求 要○ 表記の誤り など	11 3 22	例年同様、読みの問題と比較すると正答率が低い結果となった。今年度は小学校で学習してきた漢字が多く出題されたが、定着に課題が残る結果となった。意味を考えながら漢字を使う習慣を付けることが重要である。また、今後の学習では、授業の中で、実際に熟語や既習の漢字を活用する機会を多く設け、丁寧な指導を心がけること、日常的な指導を積み重ねることが引き続き必要である。 (平均正答率 57.0%)
		2	観察	69	8	○察 観○ 表記の誤り など	5 3 15	
		3	提案	51	12	定安 安のみ 表記の誤り など	9 5 23	
		4	勇(ましく)	57	19	努 勢 表記の誤り など	3 3 18	
		5	志(す)	66	13	試 心差 表記の誤り など	8 2 11	
	(ウ)	6		58	0	5 7 1 など	27 7 8	
	(エ)	1		74	1	3 2 4 など	17 5 3	小問ウは、文を文節に区切る問題であったが、昨年度の「文の数を答える問題」と比べると低い正答率であった。文法の基礎的な知識として繰り返し確認し定着を図る必要がある。小問エ、オについては、正答率は7割を超えたものの昨年と比べると低かった。今後も基礎的な言語事項の指導の工夫が必要である。 (平均正答率 69.6%)
	(オ)	しんによ(う(しんにゅう))	77	11	にんべん へん によへん など	2 1 9		

※正答率100%や無答率0%は、数値を四捨五入した結果によるものです。以下、他教科も同様です。

大問	小問	正答	正答率	無答率	主な誤答 (%)	授業改善への手だて		
3	(ア)	3	32	0	2 1 4	49 16 3	小問アは筆順を問う問題であった。出題は既習の漢字であったが、正答率は低かった。筆順の理解は、筆脈を生かして書くことと関連するものであり、授業で筆順にも触れて指導する必要がある。(平均正答率 56.5%)	
	(イ)	1	81	0	2 4 3 など	14 3 2		
4	(ア)	3	43	0	1 4 2	43 13 1	大問4は、詩を読んで解答する問題であった。小問イの、内容を理解して適切な語句を選ぶ設問は、高い正答率であった。詩の全体の内容を捉えることはできる傾向にある。一方で、昨年度同様に小問オの詩中の語句の使い方に関する問題の正答率は低く、また無答率も高い。詩の授業では、抽象的な表現からも具体的に想像を広げ、読み深められるような授業の計画を行う必要がある。(平均正答率 58.7%)	
	(イ)	2	93	0	3 4	5 2		
	(ウ)	2	86	0	4 3 1	10 3 1		
	(エ)	1	65	0	3 4 2	21 10 4		
	(オ)	I	デッサン	37	16	絵はがき ダッシュ きまぐれ など		17 3 27
		II	おいてきぼり	44	25	ぼくは考える いつのまにか 海のリズムで など		9 3 19
III		友だち	43	17	リズム 贈り物 入道雲 など	10 7 23		
5	(ア)	4	95	0	2 3	4 1	大問5は、主人公が友達との関わりの中で自己を見つめなおすという内容の文章について出題したものである。中学生にとって感情移入しやすく、共感できる部分も多いテーマで、読みやすい文章だったと考えられる。小問ア、オは95%という高い正答率であり、登場人物の心情を文章の中から読み取ることはできていた。一方、記述の問題である小問カは正答率が低く、無答率は高い結果となり、課題が残った。日頃の授業の中で、具体的な文字数やキーワード等を指定しながら文章を書く機会をつくり、目的や条件に即して書く力を育てていくことは必要である。また、文章を書くことへの抵抗感や苦手意識を少なくしていくような指導も大切である。(平均正答率 75.2%)	
	(イ)	2	75	0	1 4 3	14 7 4		
	(ウ)	4	71	0	3 1 2	14 8 7		
	(エ)	2	74	0	1 4 3	12 12 2		
	(オ)	1	95	0	2 4 3	2 2 1		
	(カ)	友達をつくるために自分から声をかけるなどして積極的に行動する		40	10	B C(無答以外)		25 25
	(キ)	3	77	1	1 2 4	14 6 2		



大問	小問	正答	正答率	無答率	主な誤答	(%)	授業改善への手だて
6	(ア)	3	49	3	2 1 4	32 11 5	大問6は、説明的な文章の読解に関する問題である。文章の前半は比較的読みやすい内容ではあるが、後半部分には聞きなれないカタカナの言葉が出てくるため読みにくく感じた生徒が多いと考えられる。例年と同様、今年度も文学的な文章の大問より約10ポイント低い正答率となった。小問キは、段落の役割、相互関係を問う設問であった。選択肢1を多く選んでいることから、段落に書かれている内容は読み取れていても、前の段落との関係を読み違う傾向があると考えられる。授業の中では、その段落が文章の中でどのような役割があるのかを、特徴を捉えながら指導していく必要がある。また、小問アは、接続語を問う設問であったが、昨年同様に低い正答率となっている。今後の学習では、日頃から前後の文章の内容をしっかりと把握し、どのような関係性なのかを丁寧に読み進めていく指導が大切である。 (平均正答率 62.2%)
	(イ)	2	83	1	1 3 4	8 5 3	
	(ウ)	2	77	3	4 1 3	10 6 4	
	(エ)	4	72	2	2 1 3	13 10 3	
	(オ)	1	77	2	2 4 3	15 5 1	
	(カ)	全体に灰汁を多く含み、虫に食べられることからからだを守る	31	22	B C(無答以外)	12 35	
	(キ)	3	55	10	1 2 4	22 8 5	
	(ク)	4	54	10	2 3 1	18 10 8	

# Ⅲ 第2学年の結果と分析

## 1. 小問別の問題内容と結果正答率【国語 第2学年】

問題番号		趣旨					問題の内容	出題のねらい	正答率(%)	無答率	
大問	小問	知・技	思・判・表	話・聞	書	読					言
1	(ア)		○	◎				インタビューの進め方を的確にとらえることができるか。	93	1	
	(イ)1	○		◎				インタビューの内容を的確に聞き取ることができるか。	56	1	
	(イ)2	○		◎				インタビューの内容を的確に聞き取ることができるか。	95	1	
	(イ)3	○		◎				インタビューの内容を的確に聞き取ることができるか。	82	1	
	(ウ)		○	◎				話題と資料との関係をとらえて聞くことができるか。	85	2	
2	(ア)1	○					◎	既習の漢字について、正しく音読みできるか。	91	4	
	(ア)2	○					◎	既習の漢字について、正しく音読みできるか。	94	2	
	(ア)3	○					◎	既習の漢字について、正しく訓読みできるか。	92	3	
	(ア)4	○					◎	既習の漢字について、正しく訓読みできるか。	79	4	
	(ア)5	○					◎	既習の漢字について、正しく音読みできるか。	56	12	
	(イ)1	○					◎	既習の漢字について、正しく書くことができるか。	56	21	
	(イ)2	○					◎	既習の漢字について、正しく書くことができるか。	58	20	
	(イ)3	○					◎	既習の漢字について、正しく書くことができるか。	69	18	
	(イ)4	○					◎	既習の漢字について、正しく書くことができるか。	46	35	
	(イ)5	○					◎	既習の漢字について、正しく書くことができるか。	47	16	
	(ウ)	○					◎	単語が理解できるか。	35	1	
	(エ)	○					◎	修飾語、被修飾語の使い方が理解できるか。	85	1	
	(オ)	○					◎	類義語が理解できるか。	22	1	
	3	(ア)A	○					◎	内容の理解と的確な鑑賞ができるか。	95	0
		(ア)B	○					◎	内容の理解と的確な鑑賞ができるか。	97	0
(ア)C		○					◎	内容の理解と的確な鑑賞ができるか。	81	0	
(イ)		○					◎	内容の理解と的確な鑑賞ができるか。	82	0	
(ウ)		○					◎	表現技法が理解できるか。	41	3	
(エ)		○					◎	内容の理解と的確な鑑賞ができるか。	85	1	
4	(ア)	○					◎	登場人物の心情を読み取ることができるか。	87	0	
	(イ)	○					◎	文章中の語句の使い方について理解できるか。	80	0	
	(ウ)	○					◎	登場人物の心情を読み取ることができるか。	72	0	
	(エ)	○					◎	内容の理解・把握ができるか。	64	1	
	(オ)	○					◎	登場人物の心情を読み取ることができるか。	28	1	
	(カ)	○					◎	文章を的確に読み取り、条件を満たして記述することができるか。	81	9	
	(キ)	○					◎	内容の理解・把握ができるか。	48	1	
	(ク)	○					◎	人物像を的確に把握できるか。	82	1	
5	(ア)	○					◎	文のつながりを理解することができるか。	60	2	
	(イ)	○					◎	接続語を理解し、文章相互の関係をとらえることができるか。	88	1	
	(ウ)	○					◎	内容の理解・把握ができるか。	72	1	
	(エ)	○					◎	内容の理解・把握ができるか。	86	1	
	(オ)	○					◎	内容の理解・把握ができるか。	84	1	
	(カ)	○					◎	内容の理解・把握ができるか。	90	1	
	(キ)	○					◎	内容の理解・把握ができるか。	80	2	
	(ク)A	○					◎	内容の理解・把握ができるか。	53	14	
	(ク)B	○					◎	内容の理解・把握ができるか。	35	27	
6	(ア)	○					◎	地の文と会話文を識別できるか。	20	17	
	(イ)	○					◎	歴史的かなづかいを正しく理解しているか。	62	13	
	(ウ)	○					◎	主語の把握ができるか。	54	4	
	(エ)	○					◎	内容の理解・把握ができるか。	53	4	
	(オ)	○					◎	内容の理解・把握ができるか。	42	5	
7		○				◎	条件を満たして、文章を書くことができるか。目的に沿って作文できるか。	58	16		

◎…主たる観点

平均正答率(%)		
知識・技能		64.9
思考・判断・表現		69.4



## 2. 主な誤答と分析【国語 第2学年】

大問	小問	正答	正答率	無答率	主な誤答 (%)	授業改善への手だて		
1	(ア)	1	93	1	2 3 4	2 1 1	大問1は、職場体験でのインタビューを題材としたもので、インタビューの様子を捉えることや資料の活用については概ね良好である。小問イは、インタビューの内容を正確に聞き取る問題だったが、1の正答率が他よりも低かった。これは内容を正確に整理できておらず、質問の「主な」「常に」との関連性の理解が不十分だったことが要因として考えられる。今後の学習では、話の中心を組み立てて聞き、内容をより具体的に想像しながら聞き取る学習活動の機会が必要である。(平均正答率 82.2%)	
	(イ)	1	×	56	1	○ その他		40 2
		2	×	95	1	○ その他		1 2
		3	○	82	1	×		15 2
(ウ)	1		85	2	2 4 3	5 4 4		
2	(ア)	1	いじ	91	4	しじ すいり	2 1	大問2では、言語に関する基礎的な知識が身に付いているかが問われた。小問アは、既習の漢字についての読字だが、日常生活で多く目にする漢字は相当数の生徒が正しく読めている。しかし、「舞踊」は、日常生活であまり目や耳にする機会がないことから誤答が多かったと思われる。今後の学習では、多くの言葉に触れる機会を作り、授業の中で習慣的に辞書を活用するなどして、語彙を増やしていくことが求められる。(平均正答率 82.4%)
		2	かんげい	94	2	かんゆう	2	
		3	せま(る)	92	3	まいる つのる はしる など	1 1 2	
		4	ともな(う)	79	4	さまよう おぎなう うたがう など	2 2 7	
		5	ぶよう	56	12	ぶとう まいおどり おどり えんぶ ぶげい など	13 6 12	
	(イ)	1	清潔	56	21	清○ 静 表記の誤り	11 3 3	小問イは、既習の漢字の書字だが、読字と同様、「報じる」のようによく使われる漢字は定着していることが分かる。しかし「長編」の「編」、「納税」の「納」は誤りが多かった。文脈から熟語の意味を判断し、「長く編む」「税を納める」のようにかみ砕いて考えられていないことがうかがえる。また「敬う」の無答率が高く、「尊敬」という熟語はよく使っている、用いられている漢字の意味や訓読みは理解が不十分であると分かった。熟語の成り立ちを意識しながら漢字を書く機会を増やしたり、学んだ漢字を活用したりする中で定着を図ることが必要である。(平均正答率 55.2%)
		2	長編	58	20	長○ 超 表記の誤り	18 1 2	
		3	報(じる)	69	18	放 法 幸 禁 表記の誤り	2 3 2	
		4	敬(う)	46	35	尊 羨 慰 など 表記の誤り	7 5 5	
		5	納税	47	16	農 納○ など 表記の誤り	22 9 2	
	(ウ)	7		35	1	6 4 5	46 9 7	文を正確に単語に分ける小問ウと、正しい類義語の組み合わせを選ぶ小問オの正答率が低かった。誤答の要因として、「行った」を正確に単語に分けることや、対義語と類義語の違いを十分に理解していないことが考えられる。単語や文節の定義と分け方の違い、類義語と対義語の定義や熟語の意味等について、継続的に学習する必要がある。(平均正答率 47.3%)
	(エ)	2		85	1	3 4 1	10 3 1	
	(オ)	1		22	1	3 2 4	41 18 18	

大問	小問	正答		正答率	無答率	主な誤答 (%)		授業改善への手だて
3	(ア)	A	2	95	0	3 1 4	3 1 1	大問3は、短歌の内容を理解し、的確に鑑賞する力が問われた。昨年度と同様に正答率は概ね良好であり、学校生活を題材とした作品が共感しやすく理解しやすかったと思われる。しかし、小問ウは、他と比べると著しく正答率が低かった。例の中から「体言止め」が使われている短歌の数を問う問題であったが、誤答の要因として、「こころ」と平仮名で表現されていたために「体言止め」ではないと判断した歌があったことが考えられる。今後の学習では、表現技法の特徴やその効果等を理解できるよう、鑑賞の学習から学びを深めていく必要がある。 (平均正答率 80.2%)
		B	4	97	0	1 3	1 1	
		C	3	81	0	4 2 1	8 5 5	
	(イ)	1	82	0	2 4 3	14 2 2		
	(ウ)	4	41	3	3 2 5	31 15 4		
	(エ)	5	85	1	2 3 1	7 3 2		
4	(ア)	2	87	0	4 1 3	7 3 2	大問4は、小説から登場人物の心情や状況を読み取る力が問われた。小問オ、キは、他と比べると正答率が低かった。どちらも「あてはまらないもの」を選ぶ問題であり、誤答の内容からも問題自体を正確に把握できていなかった可能性が高い。一方で、登場人物の心情や人物像を問っている小問ウの正答率は7割、小問クは8割を超えており、会話のつながりを意識して読むなど、文学的な文章の読解力がついてきているとうかがえるところもある。小問カは、条件を満たして記述する力を問うものである。正答率は81%で、最近5年間では最も高かった。今後も、日頃の授業の中で、読み取った内容を文章としてまとめて書く機会を設定したり、目的や条件に即して書くような学習を積み重ねたりしていくことが大切である。また、それらの学習の際には、書いて終わりにせず、教員もアドバイスや添削をしていくことが必要である。 (平均正答率 67.8%)	
	(イ)	4	80	0	3 1 2	9 7 3		
	(ウ)	1	72	0	2 4 3	22 3 3		
	(エ)	4	64	1	2 3 1	27 4 4		
	(オ)	1	28	1	2 3 4	28 25 18		
	(カ)	こうすけが大切にしていた秘密が明らかになってしまった	81	9	B C(無答以外)	4 7		
	(キ)	3	48	1	4 1 2	36 11 5		
	(ク)	3	82	1	4 1 2	7 6 4		

大問	小問	正答	正答率	無答率	主な誤答 (%)	授業改善への手だて
5	(ア)	a	60	2	d 18 b 13 c 6	大問5は、説明的な文章の読解力が問われた。平均正答率は昨年度より約23ポイント高かった。「植物の防衛手段」という、1年次の教科書教材の内容（「ダイコンは大きな根？」）の発展的な題材が生徒の興味をひき、語句も難易度が高くないことから、理解しやすかったのだろうと考えられる。しかし、小問ア、クは正答率が他に比べて低かった。小問アは、抜けている一文の正しい箇所を問う問題であるが、問題提起の一文を正確な箇所に入れることができていない。その一文が文章の中でどのような役割を果たしているのかを考えられるようにする必要がある。小問クは、要約に際し適切な言葉を抜き出す問題であるが、特にBは正答率が約35%と低かった。文章全体を理解し、まとめることができるようにする必要がある。今後の学習では、筆者の主張をどのような展開で組み立てているのか、キーワードは何かなどを意識しながら文章を読むことが必要である。また、キーワードを含め、内容を要約する活動を取り入れることも重要である。 (平均正答率 72.0%)
	(イ)	4	88	1	3 6 2 3 1 1	
	(ウ)	1	72	1	2 13 3 11 4 3	
	(エ)	3	86	1	4 5 2 4 1 3	
	(オ)	3	84	1	1 9 4 3 2 2	
	(カ)	2	90	1	3 3 1 3 4 2	
	(キ)	4	80	2	2 8 3 8 1 2	
	(ク)	A 天敵	53	14	強者 6 生物 6 動物 など 12	
	B 進化を遂げた	35	27	利用している 22 分布を広げる 5 進化してきた など 10		
6	(ア)	日の ～ 遠き	20	17	孔子～〇〇 19 日の～〇〇 27 かし～〇〇 など 16	大問6は、本文自体は短いが現代文の読解力を問う大問に比べると読み慣れないせいか、正答率が低かった。小問アは会話文の識別であったが正答率が低い。小問イは現代仮名遣いに直す問題であったが、問題の意図が理解できず現代語にする誤答も目立った。同様の問題を解く中で、歴史的仮名遣いについての理解を深める必要がある。今後の学習では、声に出しながら多くの古典作品に触れ、古典独特のリズムや、主語や助詞の省略を理解することが必要である。その上で内容把握や、誰の会話かを判断する力等が求められる。(平均正答率 46.2%)
	(イ)	あいぬ	62	13	あきぬ 6 がいる など 3 ありぬ あえぬ など 15	
	(ウ)	4	54	4	1 25 2 12 3 6	
	(エ)	2	53	4	3 20 1 14 4 8	
	(オ)	1	42	5	2 34 3 11 4 8	
7	模範解答参照	58	16	B 5 C(無答以外) 20	大問7は、資料を活用し条件に合った文章を書く問題であった。図書委員として新聞の記事を書くという、分かりやすく、学校生活ですぐに活用できる題材のためか、昨年度より無答率が約16ポイント低く、正答率が25ポイント高かった。約6割は、全ての条件に合った解答をすることができ、読書の良さについての考えを的確に書くことができたと考えられる。一方、約2割は、文章として適切な表現ができていないことから、今後の学習では、様々なことを題材として、まとまった文章を書くことを習慣づける必要がある。話し言葉と書き言葉の違いや原稿用紙の使い方も再度丁寧に指導し、継続的に「書く」場面を設定することが重要である。(平均正答率 58.0%)	

# IV 第3学年の結果と分析

## 1. 小問別の問題内容と結果正答率【国語 第3学年】

問題番号		趣旨		話・聞	書	読	言	問題の内容	出題のねらい	正答率(%)	無答率
大問	小問	知・技	思・判・表								
1	(ア)1	○	◎					①聞き取り	話し合いの内容を的確に聞き取ることができるか。	89	0
	(ア)2	○	◎						話し合いの内容を的確に聞き取ることができるか。	96	0
	(ア)3	○	◎						話し合いの内容を的確に聞き取ることができるか。	63	0
	(イ)		○	◎					話し合いの仕方を的確にとらえることができるか。	69	1
	(ウ)		○	◎					話題と資料との関係をとらえて聞くことができるか。	84	1
2	(ア)1	○					◎	②漢字の読み	既習の漢字について、正しく音読みできるか。	51	13
	(ア)2	○					◎		既習の漢字について、正しく音読みできるか。	100	0
	(ア)3	○					◎		既習の漢字について、正しく音読みできるか。	91	5
	(ア)4	○					◎		既習の漢字について、正しく訓読みできるか。	57	10
	(ア)5	○					◎		既習の漢字について、正しく訓読みできるか。	95	0
	(イ)1	○					◎	③漢字の書き	既習の漢字について、正しく書くことができるか。	77	14
	(イ)2	○					◎		既習の漢字について、正しく書くことができるか。	59	5
	(イ)3	○					◎		既習の漢字について、正しく書くことができるか。	66	7
	(イ)4	○					◎		既習の漢字について、正しく書くことができるか。	74	8
	(イ)5	○					◎		既習の漢字について、正しく書くことができるか。	76	7
(ウ)	○						◎	④言葉に関する知識	同訓異字が理解できるか。	77	0
(エ)	○						◎		故事成語が理解できるか。	68	0
(オ)	○						◎		連体詞と形容動詞の識別ができるか。	63	0
3	(ア)A	○					◎	⑤俳句の鑑賞	内容理解と的確な鑑賞ができるか。	93	0
	(ア)C	○					◎		内容理解と的確な鑑賞ができるか。	69	0
	(イ)	○					◎		内容理解と的確な鑑賞ができるか。	63	8
	(ウ)	○					◎		季語、季節を理解できるか。	58	0
	(エ)	○					◎		表現技法が理解できるか。	46	0
	(オ)	○					◎		表現上の特色が理解できるか。	65	0
4	(ア)	○					◎	⑥文学的文章の読み取り	登場人物の心情を読み取ることができるか。	73	1
	(イ)	○					◎		内容の理解・把握ができるか。	50	1
	(ウ)	○					◎		内容の理解・把握ができるか。	84	1
	(エ)	○					◎		登場人物の心情を読み取ることができるか。	51	2
	(オ)	○			◎				文章を的確に読み取り、条件を満たして記述することができるか。	17	21
	(カ)	○					◎		文章中の語句の使い方について理解できるか。	94	1
	(キ)	○					◎		登場人物の心情を読み取ることができるか。	77	1
5	(ア)	○					◎	⑦論理的文章の読み取り	段落の前後関係を理解することができるか。	37	2
	(イ)	○					◎		内容の理解・把握ができるか。	73	2
	(ウ)	○					◎		内容の理解・把握ができるか。	66	17
	(エ)	○					◎		内容の理解・把握ができるか。	86	2
	(オ)	○					◎		内容の理解・把握ができるか。	68	2
	(カ)	○					◎		内容の理解・把握ができるか。	74	2
	(キ)	○				◎			文章を的確に読み取り、条件を満たして記述することができるか。	34	29
	(ク)	○					◎		内容の理解・把握ができるか。	33	10
6	(ア)	○					◎	⑧古典の読解	主語の把握ができるか。	28	5
	(イ)	○					◎		歴史的かなづかいを正しく理解しているか。	87	4
	(ウ)	○					◎		地の文と会話文を識別できるか。	9	12
	(エ)	○					◎		内容の理解・把握ができるか。	70	4
	(オ)	○					◎		内容の理解・把握ができるか。	56	5

◎…主たる観点

平均正答率 (%)		
知識・技能		69.9
思考・判断・表現		64.3

## 2. 主な誤答と分析【国語 第3学年】

大問	小問	正答	正答率	無答率	主な誤答	(%)	授業改善への手だて			
1	(ア)	1	×	89	0	○ 数字で答えている	10 1	大問1は、「食品ロス」をテーマにした弁論を書く前の話し合いであった。小問アは話し合いの内容を正確に聞き取る問題であったが、正答率が高い2の問題は、具体的な数値が示されており、生徒にとってわかりやすかったと考えられる半面、3は話し合いの中で出てこない言葉が使われ、混乱したのではないかと考えられる。小問イは話し合いの様子を問う問題であったが、正答率が高いとはいえない。授業の中で、情報を正確に聞き取り、重要なキーワードをメモするとともに、会話の全体的な様子を捉えるような指導を継続する必要がある。(平均正答率 80.2%)		
		2	○	96	0	×	3 1			
		3	×	63	0	○ 数字で答えている	36 1			
	(イ)	4		69	1	2 1 3	18 11 1			
	(ウ)	1		84	1	4 3 2	8 5 2			
2	(ア)	1	しんし	51	13	しんしつ しんげき しんちよく など	8 4 24	大問2は言語に関する基本的な知識が問われた。小問アは既習の漢字の読字だが、「監督」「曖昧」「何う」は正答率が高い。反対に、「真摯」「顧みる」は正答率が50%程度である。1では「摯」の文字が日常的にあまり目につかない漢字であること、また「顧みる」は日常的に耳にしているも、漢字と結びついていないことが考えられる。日常的に様々な言葉を使い、語彙に関心をもって生活することを授業で指導していく必要がある。また、授業の中で意図的に話したり、文章中に取り入れたりすることが有効であると考えられる。(平均正答率 78.8%)		
		2	かんとく	100	0					
		3	あいまい	91	5	あんみ ぎんみ じゅんみ など	1 1 2			
		4	かえり(みる)	57	10	こころ かいま ほころ など	25 2 6			
		5	うかが(う)	95	0	うたが したが にな など	1 1 3			
	(イ)	1	材質	77	14	○質 在質 剤質 など	3 1 5		小問イは既習漢字の書字である。日常的に使用したり、目にしたりする漢字が多かったからか、昨年より正答率が上昇した。しかし、まだまだ高い数値とは言えず、依然として漢字の書字については課題があると考えられる。「優秀」は、当該学年が1年生であった一昨年度も出題し、正答率が45%であったものである。今回は正答率が約20ポイント上昇したものの、「秀」を書けない生徒が多いという傾向は変化していない。引き続き、既習漢字の確実な習得を目指し、日常的に使い慣れ、書き慣れさせる指導が必須であると考えられる。(平均正答率 70.4%)	
		2	専門	59	5	専門 「専」の字に点がある ○門 など	15 15 6			
		3	優秀	66	7	優○ 優劣 優越 など	9 2 16			
		4	幼(い)	74	8	幼な 表記の誤り	3 15			
		5	導(く)	76	7	表記の誤り	17			
	(ウ)	4		77	0	1 2	21 2		小問オは連体詞と形容動詞の識別の問題である。半数以上の生徒が正答したが、まだまだ高い数値とは言えない。活用の有無、言い切りの形などを考えさせるなど、基本的な品詞の特徴を正確に理解することが必要である。さらに日常的に言葉への興味・関心を高めるような指導を工夫することが大切である。(平均正答率 69.3%)	
	(エ)	1		68	0	3 2 4	16 11 5			
	(オ)	1		63	0	2	25			6 6 6
						3	6			
						4	6			



大問	小問	正答		正答率	無答率	主な誤答	(%)	授業改善への手だて
3	(ア)	A	3	93	0	4 1 2	3 2 2	大問3は、俳句の鑑賞の問題で、生徒と教師の会話から俳句の内容や表現について問う設問であった。小問ウは、季語を問う問題であるが、正答率が伸びなかった。日常的な季節感が薄れている昨今ではあるが、ただ季語を覚えるのではなく、年間を通して日常的に季節感を大切にす る指導の必要性を感じる。小問エは擬人法が使われている俳句を選ぶ問題であったが、正答率は半分に満たなかった。誤答が多かった俳句を見ると、「月の客」という表現を擬人法と 考えた生徒が多かったと推測されると同時に、折に触れ様々な作品と出会う機会を設定する必要がある。 (平均正答率 65.6%)
		C	2	69	0	1 4 3	16 9 6	
	(イ)	ひっそりと		63	8	可憐な花の 花のような 咲いている など	13 5 11	
	(ウ)	5		58	0	4 6 他	20 13 9	
	(エ)	6		46	0	7 4 他	32 12 10	
	(オ)	8		65	0	4 6 他	21 8 6	
4	(ア)	4		73	1	2 3 1	12 9 5	大問4は、小説から登場人物の心情などを問う問題であった。その中 では特に小問イ、エの正答率が伸び なかった。それらは、直接的に書か れた内容を捉えるのではなく、叙述 から、抽象的な表現で示された心情 や、登場人物の台詞の意図を読み解 く必要がある問題であった。授業の 中で細かい表現や描写に着目するな ど、日ごろから、文章を注意深く読 み、頭の中で物語の展開を整理しな がら読むことを習慣付ける必要があ る。小問オは条件を満たして登場人 物の心情を記述する問題であるが、 かなり正答率が低く、内容の条件を 満たしているが適切な文章表現と なっていないBと合わせても25%に 達していない。授業では、登場人物 の心情や人物像などとして読み取っ たことを書いてまとめたり、条件を 満たして短い文章を書いたりする活 動などを積極的に取り入れるように したい。(平均正答率63.7%)
	(イ)	3		50	1	1 4 2	33 13 3	
	(ウ)	1		84	1	2 3 4	10 3 2	
	(エ)	3		51	2	2 4 1	22 13 12	
	(オ)	航平に否定的な立場をとっていたが、灯子にはうわついた印象を持ってほしくない		17	21	B C(無答以外)	7 55	
	(カ)	1		94	1	3 2 4	3 1 1	
(キ)	2		77	1	4 3 1	10 9 3		



大問	小問	正答	正答率	無答率	主な誤答 (%)	授業改善への手だて	
5	(ア)	d	37	2	a c b	25 25 11	大問5は説明的な文章の読み取りであった。小問アは、指示語を手がかりとして文のつながりを問う問題であったが、正答率が低かった。文章を読み解く上では、段落相互の結びつきや、主張と例示を区別することなどを意識しながら読む必要があることを指導していきたい。小問キは、条件を満たして記述する問題であった。文学的な文章について問うた大問4のオよりは正答率が高かったが、依然として課題が残る結果である。無答率は大問4のオより高く、30%に迫っている。Cの出現率も約30%であることから、記述しようと試みていることはうかがえるが、はじめから諦めてしまっている生徒もいることがわかる。粘り強く文章と向き合い、読み解こうとする姿勢を養うことも必要である。小問クは内容と合致する文を選ぶ問題であったが、正答率は低かった。文章を読む際には、文章全体と部分との関係や、筆者の論理展開などを意識して丁寧に読み進めることが大切であると指導していくことが必要である。そのために授業では、話の筋を追うだけでなく、論の展開に意識を向ける指導も積極的に取り入れた。 (平均正答率58.8%)
	(イ)	4	73	2	2 1 3	11 9 5	
	(ウ)	ちんぷんかんぷん	66	17	凧を作って揚げる ブランスフォード つかむのは易しい など	5 4 8	
	(エ)	2	86	2	4 3 1	6 5 0	
	(オ)	3	68	2	1 4 2	15 9 6	
	(カ)	1	74	2	3 4 2	12 9 3	
	(キ)	スキーマと呼ばれる、私たちの中に存在しているひとまとまりの知識を、持ち出してきては使う	34	29	B C(無答以外)	8 29	
6	(ア)	1	28	5	4 3 2	36 22 8	大問6は古典の読解である。小問イは歴史的仮名遣いの設問であった。2年生の「枕草子」で習うこともあり、やや容易かと思われたが、正答率は90%に満たなかった。授業での学習の定着が課題である。小問ウは地の文と会話文との識別であるが、正答率がかなり低い。例年の課題ではあるが、古文の会話文の特徴などについて再度確認する必要がある。今後も古文に慣れるとともに、現代の考え方と比較したり、新たな発見をしたりしながら、古典に親しみをもち意欲的に学ぶ姿勢を養う必要がある。 (平均正答率50%)
	(イ)	ようよう	87	4	ゆうゆう ゆっくり どうとう など	1 1 7	
	(ウ)	さて ~ った	9	12	あそ~った 此方~った さて~千万 など	17 16 46	
	(エ)	2	70	4	3 4 1	13 8 5	
	(オ)	3	56	5	1 4 2	16 15 8	

## V 全体の考察と今後に向けて

### 1. 全体の考察

各学年とも昨年度とほぼ同程度の問題量で、時間的にも概ね適切であったと思われる。また、例年と同様に、「知識・技能」と「思考・判断・表現」に分類し問題を出題した。

平均正答率を見ると、

	知識・技能	思考・判断・表現
1 学年	74.0%	66.3%
2 学年	64.9%	69.4%
3 学年	69.9%	64.3%

となっている。各学年で比較してみると、平成27年度から4年連続で2年生の「思考・判断・表現」は最も低い傾向にあったが、昨年度から約10ポイント上回った。「知識・技能」についても同様の結果が見られた。一方、3年生の「思考・判断・表現」は昨年度より5ポイントほど低かった。

また、問題の内容ごとの平均正答率を比較してみると、

	聞き取り	漢字の読み	漢字の書き	言葉の知識	書写	韻文	文学的な文章	説明的な文章	古典	記述式問題
1 学年	81.4%	95.2%	57.0%	69.6%	56.5%	58.7%	75.2%	62.2%		
2 学年	82.2%	82.4%	55.2%	47.3%		80.2%	67.8%	72.0%	46.2%	58.0%
3 学年	80.2%	78.8%	70.4%	69.3%		65.6%	63.7%	58.8%	50.0%	

となっている。昨年度の平均正答率と比較をし、高い項目「○」、低い項目「●」については次のとおりである。

- 全学年の「聞き取り」の平均正答率が中学生にとって身近な題材ということもあり、8割を超えた。
- 全学年の「漢字の読み」「漢字の書き」の平均正答率が上昇した。
- 1 学年、2 学年の「文学的な文章」についての大問の平均正答率が上昇した。
- 全学年の「説明的な文章」についての大問の平均正答率が上昇した。
- 2 学年の「言葉の知識」の平均正答率が14ポイント下がり、言葉の単位と類義語に関して課題を残した。
- 昨年度に引き続き、古典に関する平均正答率が5割程度であり、古典に関する基礎・基本を身につけさせることや継続して古典に触れる環境づくりが求められる。

これらの成果や課題を踏まえ、生徒が国語の学習を通じてしっかりとした基礎・基本を身につけていくことが求められる。また、「主体的・対話的で深い学び」の視点から、子どもたちが深い学びを積み重ねていくことができる学習活動、授業展開を目指し、授業改善をしていくことが必要である。

新学習指導要領における国語科の目標にある「社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする」「社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う」「言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う」などを目指し、子どもたちと関わりながら、子どもたちを豊かな言葉の使い手として育成していくことが大切である。

## 2 出題内容ごとの考察

### (1) 聞き取り

全体的に正答率が高く、正確に情報を聞き取り、内容を把握する力は身に付いていると言える。ただし、1学年の小問イの2の問題は正答率67%、2学年の小問イの1の問題は正答率56%、3学年の小問アの3の問題は正答率63%で、他の聞き取り問題に比べると高くない結果であった。これは、全体の大まかな内容は捉えられるが、細かい情報は聞き逃してしまう傾向があるからではないかと考えられる。また、質問に出る「主な」や「常に」といった修飾語をしっかりととらえ、適切に判断できていないのではないかと考えられる。話を聞く際には、展開の部分と全体をどう関連付けられるかという総合的な聞き取る力が求められる。

### (2) 言語事項

漢字の読字については、1学年の平均正答率が90%を超えるなど、使用頻度の高い語句については、正しく読む力の定着がみられた。しかし、2学年の「舞踊(ぶよう)」、3学年の「真摯(しんし)」や「顧みる(かえりみる)」は、正答率が50%台であった。いずれも、中学生の生活において馴染みの薄いものであったようだ。語彙力は一朝一夕には身に付かないものなので、授業では、生徒が手元に辞書を置くようにし、辞書を引く習慣を身に付けられるようにすることが大切である。また、熟語そのものだけでなく、その例文に触れたり用例を考えたりするなど、言語感覚を養っていくことも大切である。

一方、漢字の書字については、読字に比べると正答率が低く、正答率が50%未満だったもの(1学年「要求」、2学年「敬(う)」、「納税」)もある。また、1学年「要求」の無答率が22%、2学年の「敬(う)」の無答率が35%と、文字自体も思い浮かばなかったことは課題である。出題文例は、「ようきゅうにこたえる。」「祖先をうやまう。」であったが、そもそもこれらの語彙を知らなかった可能性も考えられる。3学年については、他の学年に比べると無答率が低く、5問中4問が一桁台である。ただし、「専門」においては、無答率が5%と最も低いにもかかわらず、正答率は59%と、3学年の読字の中では最も低かった。また、「幼(い)」「導(く)」に関しては、行書のようにつなげて書いている誤答も目立ち、日頃から楷書の文字の形や、丁寧に文字を書くことの指導の充実を図る必要性を感じる。

言葉に関する知識を問う設問については、1学年は言葉の単位(文節)、指示語、部首、2学年は言葉の単位(単語)、文の成分、類義語、3学年は同訓異字語、故事成語、文法(連体詞)を出題した。正答率が特に低かった設問は、2学年の言葉の単位(単語の数)(35%)および類義語の問題(22%)である。

書写は1学年のみの出題で、筆順および硬筆での行の整え方の出題であった。筆順の正答率は32%と低かった。筆順の基本的な考え方については、改めて書写の時間にも確認すべきであるといえる。

### (3) 韻文(詩・短歌・俳句)

1学年が「詩」、2学年が「短歌」、3学年が「俳句」という形は従来通りである。全学年とも、韻文とそれを鑑賞する者の会話から内容や表現などを読み取る力について出題した。

また、短歌の出題に関しては、今年度も作問委員が自作した短歌を題材とした出題形式を継続している。(平成27年度から。)

結果を見ると、2学年の短歌については、平均正答率が約80%であった。一方、1学年の詩に関しては、平均正答率が58.7%となった。小問ごとに見ていくと、小問アの正答率は43%であったが、これは、連の中での倒置法に気が付けば判断できるものである。また、小問オの正答率はいずれも40%前後と低かった。これは、会話文の正確な読み取りも必要ではあるが、詩の中の言葉と表現する情景などを結び付けながら読み取る設問であるので、やはり、詩自体の読み取りができていないと判断で

きる。今後の学習では、多くの詩に触れられるようにするとともに、詩の中の言葉に着目し、言葉の意味やはたきを理解し、表現の特徴や効果などを感じ取りながら、内容を具体的に想像する力を養っていくことが求められる。

#### (4) 文学的な文章

例年通り、同世代（中学生または、中学生に近い年齢の人物）が複数登場し、生徒にとって共感しやすく、続きが読みたくなるような作品を選んだ。

2学年の小問オ（主人公の気持ちを問う問題）の正答率が28%と特に低かった。これは、「もったいぶる」という言葉の意味を的確に捉えられていないことが誤答の要因として考えられる。語彙を向上させる取り組みとともに、日頃から根拠に基づいた読み取りを意識させていきたい。また、1学年、3学年の、「読む力」を問うための記述式問題の正答率が低かった。1学年の小問カの正答率が40%、3学年の小問オの正答率が17%である。引き続き、文章に即して要旨をまとめたり内容を説明したりするなど、適切な言葉を選んで表現するような学習活動を積み重ねていくことが必要である。

#### (5) 説明的な文章

全学年の正答率は、1学年が62.2%、2学年が72%、3学年が58.8%と各学年でのばらつきがあった。これは、題材とした文章自体の難易度や概念的な文章か否かが影響していると思われる。

1学年の「植物はすごい」の文章は、1学年・国語の教科書教材である「ダイコンは大きな根？」という文章と似た題材を取り上げており、比較的抵抗感なく文章に向き合えたと考えられる。また、2学年の「弱者の戦略」の文章は、動植物の関係性ということで、理科の分野でも同様のことをすでに学んでいる可能性が高く、やはり生徒にとっては分かりやすい内容だったと考えることができる。一方、3学年の「わかったつもり 読解力につかない本当の原因」の文章は、他の学年の文章に比べると概念的で、生徒にとって馴染みの薄い言葉も出てくるので、難解な印象を与えた可能性がある。

各設問を見てみると、1学年の小問ア（接続詞の補充）が正答率49%、3学年の小問ア（文の挿入）が正答率37%と低かった。これらはいずれも、段落や文がどのようにつながるのかを判断する問題である。改めて、説明的な文章では、段落のまとまりを意識したり接続詞に着目したりしながら読んでいく必要性が感じられる結果であった。

文学的な文章の大問と同様、例年の課題である「読む力」を問うための記述式問題は、正答率が低かった。1学年、3学年ともに正答率は30%台であり、無答率は22%、29%と高かった。この結果から、書くことを苦手としている生徒や、はじめから書くことや考えることを諦めてしまう生徒の存在が考えられる。今後の学習でも、文章に即して考えることの徹底に努め、文章のどの部分が問われているのかを的確に捉えられるよう指導していきたい。

#### (6) 古典

昨年と同様、2学年、3学年ともに、会話文を識別する問題において正答率が特に低かった。地の文と会話文を区別できることは古文を読む上で非常に重要であり、今後への課題が依然として残った。

また、3学年の小問アは、主語を判別する問題であるが、正答率は3割に満たなかった。現代文、古文を問わず、文章を読む上で主語の判別はとても重要である。古文を読む際には、文のつながりや動作、会話、敬語などを総合的に考える力が必要になってくるので、多くの古典に触れて主語の省略や助詞の省略に慣れ、人物の行動や様子を捉える読み取りができるような指導の工夫が必要である。

#### (7) 記述式問題

平成28年度より2学年において「書く力」を問うために、記述式の問題を出題している。昨年度と比較をすると、平均正答率は25ポイント高く、約6割の生徒が条件にあった形で文章を書くことができたが、依然として課題の残る結果である。今年度も「国語に関する世論調査」からのデータを



読み取り文章を書くという、昨年度までの出題と類似したものであったが、懸念されていた無答率は昨年度の約半分であった。わかりやすい資料づくりに加え、身近で、自分の考えを明確にしやすい題材や状況を設定した成果でもあると考える。

この「書く力」を問うための出題テーマについては継続して議論し、書く量や時間の問題、採点基準について、今年度のものを土台にして更に検討を重ねたい。

### 3 経年観察およびその考察

学年	経年変化の視点	趣旨	実施年度			考察		
			H29	H30	R1			
第1学年	言葉の単位の理解	知・技	H29	H30	R1	H29は一文中文節、H30は文章中の文、R1は一文中文節の数をそれぞれ答える設問である。同じように文節の数を答えるH29と比べても正答率が大幅に低くなっており、言葉の単位を理解することに課題がある。誤答の要因として「文節」の理解が不十分のため、「一緒にみた」を一文節と捉えてしまったことが考えられる。		
			問2(ウ)	問2(ウ)	問2(ウ)		86%	87%
	登場人物の人物像を捉える (文学的な文章)	思・判・表	H27	H29	R1	登場人物の人物像を文章全体から読み取る設問である。叙述から登場人物の発言や行動を把握するとともに、それらが物語中でどのような意味をもっているかを理解することが必要になる。R1はH29と同様に8割近い正答率だが、H27と比べると低い。誤答からは、問題を読み間違え、主人公「ぼく」と友人「足立くん」を取り違えている可能性も考えられた。文章自体の読みやすさや難易度の影響も考えられるので、今後も注意して見ていく必要がある。		
			問5(ク)	問5(ク)	問5(キ)	86%	79%	77%
	接続語と文のつながりの理解 (説明的な文章)	思・判・表	H29	H30	R1	2つの空欄に入る接続語の組合せを答える設問である。今年度は「しかし」が入るべき欄に「だから」が入るとする選択肢を選んだ誤答が約30%と最も多く、比較的關係が捉えやすい「逆接」と「結果と理由」の違いを捉えられていない生徒が多いことが特徴的である。昨年度より正答率は高くなっているが、一文の内容を正確に理解することや文相互の関係を捉えること、接続語の理解に課題がある。		
				問6(イ)	問6(ア)		36%	49%
第2学年	文章を的確に読み取り条件を満たして記述する (文学的な文章)	思・判・表	H29	H30	R1	物語の内容を捉え、条件に即して記述する設問である。今年度の正答率は過去5年間で最も高かった。H29、H30はある言葉が物語中で意味することを説明する内容だったのに対し、R1は主人公の様子の理由を捉えて書く内容だったことが正答率が高かった要因の一つと考えられる。また、該当場面の登場人物が二人と少なく、立場が明確であったことや、会話から状況や心情を捉えやすかったことも考えられる。今後も、複数の叙述を関連させて内容理解をするような課題設定、読み取った内容や自分の考えを目的に応じ、適切にまとめて書くことができるような指導の工夫が引き続き求められる。		
			問4(カ)	問4(工)	問4(カ)	37%	45%	81%
	文のつながりの理解 (説明的な文章)	思・判・表	H28	H30	R1	抜き出された一文が、文章中のどこに入るかを答える設問である。文章の全体を捉えながら、その文の文章中でのつながりや、前後の文とのつながりを考えることが求められる。正答率は決して高いとは言えず、H30とも変わらないが、H28と比べると高くなってきている。文章自体の読みやすさや難易度等の影響も考えられるので、今後も注目し、論理的な文章を正確に読み取る力の向上に努めたい。		
			問5(ア)	問5(ア)	問5(ア)	52%	60%	60%
	歴史的仮名遣いの理解	知・技	H29	H30	R1	H29は「たがはず」H30は「ちひさき」R1は「あひぬ」という歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す設問である。誤答としては、仮名遣いを直すのではなく、現代語としての意味を答えているものがあった。問題の意図を理解することや、現代仮名遣いと歴史的仮名遣いの違いの理解に課題があると考えられる。		
			問6(イ)	問6(ア)	問6(イ)	59%	75%	62%
	資料をもとに、立場を明確にして自分の考えを記述する	思・判・表	H29	H30	R1	H29は「携帯電話の使い方」、H30は「手書き文字の大切さ」、R1は「図書委員として新聞記事で伝える読書のよさ」をテーマにした出題である。書く目的を明確に設定したことや身近な題材を取り上げたことによって資料の使い方も理解しやすくなり、正答率が過去2年と比べて高くなったと考えられる。また、無答率がH29は21%、H30は32%、R1は16%であることから、「携帯電話」や「読書」など、中学生が自分のこととして考えやすいテーマや書きやすい設定である比較的取り組みやすいことが分かる。		
			問7	問7	問7	44%	33%	58%
第3学年	表現の工夫と効果についての理解	知・技	H29	H30	R1	H29は体言止め、H30は擬態語、R1は擬人法が使われている俳句を選ぶ設問である。H29「土の上」の「上」は体言止めとして9割が理解し、H30「犬の尾のふさふさとして」の「ふさふさ」は擬態語として約7割が理解しているのに対し、今年度は約5割が「落ち葉ささやく」を擬人法として捉えられていない。「擬人法」という用語自体は中学生にとって国語の授業で聞き慣れているものであるが、実際の表現の工夫としての技法やその効果の理解については課題があるといえる。		
			問3(ウ)	問3(オ)	問3(工)	90%	73%	46%
	文章を的確に読み取り条件を満たして記述する (文学的な文章)	思・判・表	H29	H30	R1	物語の内容を捉え、条件に即して記述する設問である。H29、H30と比べても低い正答率であり、2年時(H30 2学年 問4(工))と比べても低い。要因として「亀太の足もどが微妙にゆれた。」という比喩的な表現で表された心情を読み取るのが難しかったことが考えられる。授業においては叙述に立ち止まり、その意味を問い直しなが読むことが必要である。また、条件に即して適切に書くことにも課題がある。読み取ったことや自分の考えなどを書いてまとめ、見直し、吟味しながら完成させていく学習などを継続的に行う必要がある。		
			問4(オ)	問4(ク)	問4(オ)	36%	35%	17%
	文章を的確に読み取り条件を満たして記述する (説明的な文章)	思・判・表	H29	H30	R1	H29と比べると、H30やR1の出題は、解答となる内容が傍線部の前後に明確に書かれているので捉えやすい。しかし今年度も低い正答率となっており、内容を正確に理解することに課題がある。また、条件の中で、聞かれていることに合うように文を組み立てなおすことにも課題があることがうかがえる。授業としては、ある説明を文章中の言葉を用いた別の表現に置き換えて説明する活動など、指導の工夫を積み重ねていくことが考えられる。		
			問5(オ)	問5(カ)	問5(キ)	30%	45%	34%
	歴史的仮名遣いの理解	知・技	H29	H30	R1	H29は「たへさせ」H30は「きはめて」R1は「やうやう」という歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す設問である。誤答としては2年生と同じように、現代語としての意味を答えているものが見られた。しかし、9割に近い正答率であること、該当学年生徒が2年時の歴史的仮名遣いの問題(H30 2学年 問6(ア))と比べると正答率が12ポイント高くなっていることから、古文に慣れ、仮名遣いの理解が深まっていることがうかがえる。		
			問6(ウ)	問6(イ)	問6(イ)	82%	93%	87%

## 4. 今後に向けて

### (1) 話すこと・聞くこと

社会生活においては、様々な場面でたくさんの人と関わり、それまでに培った「話すこと・聞くこと」の力を活用していくことが求められる。国語の授業では、説明や紹介、話し合いなどの言語活動を通して、目的や相手に応じてわかりやすく伝えるための工夫をし、伝えるべき内容を取捨選択し、的確に相手に情報を伝える力を身に付けることが大切である。また、より充実した言語活動を実践するためには、自分が発言するだけでなく、相手の言葉に耳を傾け、その意図を捉え、相手の伝えたいことを的確にくみ取ることが求められる。今回の調査における「話すこと・聞くこと」の力を問う問題では、身近な題材ということもあり全体的に正答率が高かった。しかし、より実践的な「話すこと・聞くこと」に関する力を育てていくためには、的確に情報を聞きとり、相手を意識して伝える工夫を、継続的・日常的に行っていくことが必要である。限られた授業時間の中ではあるが、自分と相手との関わりを意識した、より発展的な言語活動の場を設定し、実践を積み重ねることで、新学習指導要領の国語科の目標にある「社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う」ことを目指していきたい。

### (2) 書くこと

今年度の調査で出題した記述式問題のうち、2学年の大問7以外はいくまで「読む力」を問う問題である。普段の授業では、説明的な文章を要約する活動、自分の意見や考えたことを相手に伝えるために書き表す活動をはじめ、様々な「書くこと」の学習が行われている。その際、自分が書いた文章を読み直し、より伝わりやすい、適切な表現を探す工夫をし、推敲を重ねていく活動を、日々の授業でも取り入れていくことが大切である。目的や相手を意識した「書く」活動を通して表現力の向上を図るとともに、論理的な表現力を養えるような学習活動や指導の工夫も必要である。

そのためには、生徒たちの書くことへの苦手意識を克服することが重要である。比較的短い文章を日常的に書くことを習慣化し、「書いてよかった」「書けた!」と感じられる活動を多く設定したい。また、その際、感想文、鑑賞文など、書いた文章をよりよいものにするために意見を出し合い、「もう一度見直し、書く」ということを気軽にできる場面づくりも大切である。

### (3) 読むこと

文章を読み進める際には、まずは文章がどのような構造になっているのか、どのような内容が書かれているのか、この文章の主題は何かなどを的確に捉え、把握することが大切である。文学的な文章では、場面の展開や登場人物の設定、相互の人間関係、心情の変化などを捉えること、説明的な文章では、中心の部分と付加的な部分、事実と意見との関係、主張と例示との関係などを捉えることが求められる。その上で、文学的な文章では登場人物の言動の意味などについて考えたり、説明的な文章では文章と図表を結びつけたりして内容を解釈することなどが、文章を読み深め、理解することにおいて重要である。

授業では、問いに対する答えや根拠となる部分を探すなどの基礎的な「読むこと」の学習を通してしっかりとした礎を築くとともに、他者と関わることで自分の考えを広げたり深めたりすることを継続して行いたい。そのような言語活動を通して、仲間とともに文章を読み深めたり読み味わったりすることは、「読むこと」の良さを知り、読む力を身に付けていくために有効であると考えられる。

また、韻文の授業では、倒置法や体言止めなどの表現技法の学習に加え、言葉の響き、作品に描かれている情緒、季節感や作者の意図などを味わい、韻文だからこそ感じられること、想像できることを大切にしながら、韻文に対する関心や理解を深められるような授業づくりが大切である。